

救急蘇生ワークショップ

～救命処置の普及を目指して～

代表者 礪山 智史 (医学部医学科 4 年)

1. 目的と概要

救命蘇生のトレーニングコースである「BLS」及び「ICLS」を学生が自主性をもって広める。「BLS」は一般市民に救命処置の正しい知識とスキルを普及させることを第一目標とし、「ICLS」は日本救急医学会認定コースの実施により、救命処置の一層の普及を行う。

2. 実施期間 (実施日)

今年度の活動内容は以下のとおりです。

[一般市民向け講習会]

2012 年 9 月 17 日 一般向け BLS 講習会を「第 5 回カーフリーデー高松」の一環として開催

2012 年 10 月 6 日 香川大学医学部祭にて AED の展示と救急蘇生法を講習

2012 年 10 月 14 日 徳島文理大学大学祭にて BLS 講習会を開催

2012 年 11 月 11 日 一般 BLS 講習会をチーム香川による世界糖尿病デーイベントにて開催

2012 年 11 月 16 日 一般向け BLS 講習会「香川第一中学校」(黒田教授のお手伝いとして参加)

2012 年 11 月 25 日 一般 BLS 講習会を「第 2 回 目からウロコの糖尿病撲滅フェア」にて開催

2013 年 2 月 2 日 小児・乳児 BLS 講習会「さぬき市立長尾幼稚園おやじの会」

[香川大学生向け講習会]

2012 年 9 月 1 日 香川大学サークルリーダー研修会にて救急蘇生法を講習

2012 年 7 月 21 日 第 13 回医学部生向け ICLS 講習会を開催

2012 年 12 月 16 日 第 14 回医学部生向け ICLS 講習会を開催(日本救急医学会認定コース)

3. 成果の内容及びその分析・評価等

この1年間の活動で一般の方にBLSを講習する機会は計7回、香川大学生に向けての講習は3回となりました。それぞれの講習会で対象となる方や、時間などが違うため毎回打合せでどういった形式にするかなど下準備をし、講習の質が可能な限り高くなるよう努めました。以下に今年度のBLS講習会のいくつかについて報告させていただきます。

9月17日の「第5回カーフリーデー高松」は、高松市内の丸亀町商店街にて開催されたイベントです。イベントの一環として美術館北通り診療所が展開したブースをお借りし、道行く人々を対象にBLS講習を行いました。大きなテレビ画面でBLSの解説ビデオを流し、興味が有る方には実際に練習もして頂く形を取ったところ、多くの方が立ち止まり、ブースの中に入ってくださいました。ご家族で来られていた方が多く、大切な人が倒れた時という言葉に共感いただいて、非常に熱心に練習して下さる方が多かったです。



第5回カーフリーデー高松

2月2日の小児・乳児BLS講習会は「さめき市立長尾幼稚園おやじの会」という保護者会を対象に開催したものです。当勉強会を取材してくださったテレビ局の方を通じて、今回の講習会の話が持ち上がりました。みなさんお子さんがいらっしゃるため、非常に熱心に練習をしてくださり、和気藹藹ととても良い講習会になりました。小児BLSを受講、練習できる場は限られているため、今回の講習会が開催できて非常に良かったとの声もいただきました。



さめき市立長尾幼稚園にて

香川大学生を対象としたものになりますが、9月1日に香川大学サークルリーダー研修会が行われ、香川大学からお話を頂き、当勉強会はBLS講習会のインストラクターとして参加しました。各サークルの代表が集まっていたため責任感のある方ばかりで、積極的に講習に参加して下さる方が多く感じました。人が多く集まるサークルこそ、いざという時に動ける人が必要になります。この講習会はサークルリーダーを育てる一要因になったのでは無いかと思います。またこれだけ大人数を一度に講習する機会は当勉強会としても滅多になく、指導方法の幅を広げるいい機会になりました。後に頂いたアンケート結果でも8割以上の方がよかった、またはたいへんよかったと言ってください、意味のある講習会になったと思います。



香川大学サークルリーダー研修会



徳島文理大学 杏樹祭にて

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

BLS、AED が注目されて、知っている人や体験したことがある人がだんだんと増えて来ました。しかしそれでも、講習の際に一言「今までに体験されたことはありますか」と伺うと、初めてですと答える人もまだまだいらっしゃいます。そういった方に講習することは BLS の普及に一役買うと共に、地域の方々に「香川大学生はこういった活動もしているんだ」と知っていただけるいい機会になります。事実、当勉強会の認知度は代を重ねるに連れ上昇し、今年度もテレビや新聞に複数回取り上げられ、メディアを通じて活動の紹介と依頼を受けることにも繋がりました。



さぬき市立長尾幼稚園職員とおやじの会のみなさん

地域住民からは香川大学生による救急蘇生の普及活動として認められ、香川大学に対するイメージアップにつながっていると考えています。そして地域社会には救急蘇生法を知る人を増やし、助かるかもしれない命を増やすことで貢献していると考えています。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトを通して私達学生が受けた影響として、責任感と自主性があげられると思います。講習会を開催するためには多く方のご協力と、事前の打合せや計画が必要になります。直前で中止といったことは当然許されず、準備不足で中途半端な講習をすることは当勉強会及び香川大学の信用を失うことになりかねません。私たちは常に香川大学の一学生という立場なのです。勉強会のメンバーはそれぞれの学生生活をこなしながら講習会への責任を持ち、それを果たすことで成長することができました。またそれぞれの行事への参加は一切強制せず、自主性をもって取り組み、各自の出来る仕事をこなすという自主性も育むことができました。責任感や自主性は、学生という立場では大きな問題にはなりません、社会人になった瞬間から必ず求められるものであり、それを学生時代から徐々に身につけることは大切なことだと思っています。

また講習を通して様々な人と関わることで人とのコミュニケーション能力の向上にも繋がりました。BLS を全く知らない方と何度か受講された方では教え方も変わり、年齢に合わせて使う言葉や内容も変え、相手とどのように接すればより親密な関係を築けるかと考え、行動できるようになったのです。これは将来様々な患者さんと接する際に医療従事者として必要不可欠な能力であり、そういった点でも今回の活動は非常に有意義なものだったと思います。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクトの目標として、プロジェクト名にも組み込まれているように「救命処置の普及」を掲げました。昔と比べて一般の方にも一次救命処置、BLS は広まって来ました。しかし実際に満足が行く救命処置を施せる人はどのくらいになるのでしょうか。

2010年に発表されたガイドラインは私達が感じる限り、あまり普及していません。より多くの方が習得しやすいようにと大幅に簡略化されたにも関わらずです。確かに AED が一般市民に許可された時とはインパクトが違うかも知れませんが、ガイドラインが全て正しいというわけでもありません。しかし、救急蘇生法の普及に滞りがあるということが問題なのだと思います。私たちの活動で一人でも多くの命が救われればと1年間に渡り普及活動を行いました。

中間報告会では、学長にも「当勉強会が行なっている活動は非常に高尚なものである」と認められ、自分達の活動に誇りを感じました。「この活動がより大きなものとなれば」、「いずれは香川大学に誇っていただける存在になることができれば」、「その結果、香川県の救命率が上昇すれば」と思い、今後の勉強会の発展に尽力したいと思いました。

反省としてあげられる点としては、活動計画の1つにあげていた勉強会のHP作成による広報活動が完了できなかったことです。今以上に多くの方に当勉強会の活動を認識してもらえる手段として、今後いずれかの時点で完成させたいと思います。また講習会のアンケートを作成し、受講された方々の意見を数値化することも今後考えていこうと思います。



香川大学 学生 ACLS 勉強会

7. 実施メンバー

代表者	礒山 智史 (医学部4年)		
構成員	岸本 優佳 (医学部6年)	戸村 美紀 (医学部6年)	
	高見 康景 (医学部6年)	眞鍋 亜里沙 (医学部6年)	
	安岐 沙耶香 (医学部5年)	加藤 諒 (医学部5年)	
	佐々木 諒 (医学部5年)	砂川 恵里佳 (医学部5年)	
	多々川 貴一 (医学部5年)	村田 智洋 (医学部5年)	
	上柴 このみ (医学部5年)	辻川 真太郎 (医学部5年)	
	井元 裕子 (医学部4年)	大庭 聖也 (医学部4年)	
	北代 紗也 (医学部4年)	只友 蓉子 (医学部4年)	
	福尾 祐介 (医学部4年)	藤綱 隆太郎 (医学部4年)	
	中村 杏子 (医学部4年)	赤木 祐香 (医学部3年)	
	田村 友和 (医学部3年)	藤原 健介 (医学部3年)	
	山村 將 (医学部3年)	荒木 健 (医学部3年)	
	赤木 千香 (医学部3年)	原田 紗千子 (医学部3年)	
	加地 智洋 (医学部2年)	粕谷 美帆 (医学部1年)	
	武知 寛樹 (医学部1年)	中谷 元 (医学部1年)	
	松尾 優樹 (善通寺看護学校3年)		